



KOHASU-KUN

こはすくん

高知大学 病院広報

うちの病院 ここがスゴイ! Part.64
新病棟が完成しました!

花粉症について

お仕事紹介

「医療ソーシャルワーカー」について

●4コマ漫画「こはすくん」第28回

院内散歩

●フレンドリーコンサートを行いました
●クリスマスツリーを飾りました

うちの病院
ここが
スゴイ!

Part.64



外観 東面



外観 北面

新病棟が完成しました!

平 成26年11月28日、新しく病棟が完成しました。学内で名称の公募を行い、「第二病棟」に決まりました。地上7階建て(18,514㎡)、屋上にはドクターヘリでの緊急搬送にも対応出来るヘリポートを完備しました。



ヘリポート

1 階から3階の一部には診療部門、3階以上は病棟で構成されています。2階の手術室は現在の手術室より約1.5倍から2倍広くなり、高度な手術にも対応出来る設備となっています。

集 中治療室(ICU)も、現在のベッド数6床から12床となることで、手術を受けられた患者さんへ継続した治療や看護がより多く行えるようになります。周産母子センターも受け入れ出来るベッド数を増やし、出産を迎えられるお母さんと生まれてこられるお子さんが入院治療をより手厚く受けられるようにしました。

病 室は患者さんよりアンケートを頂いた結果を反映して第二病棟では個室率を上げ、27%としました。また4人用の病室にも、移動できる間仕切りを設けることにより、プライバシーが保たれるように配慮しました。入院患者さんに【自力でトイレに行きたい】という気持ちを持って早期に病気を克服して頂けるよう、全個室にトイレを設け、4人用の病室には病室の入口にトイレを設置しました。

病 室はタイプにより、浴室やキッチン、応接セットがある部屋や、



個室

4人用病室

シャワー室のある個室、出産が可能な病室など、治療内容や入院患者さんのニーズに応えられるような病室を設けました。

第 二病棟を設計していた時期に東日本大震災を経験し、少しでも減災出来る仕組みを幾つか取り入れました。第二病棟の構造は、強い揺れを軽減し、医療活動が継続出来るように免震構造としています。また、強い地震の際にはエレベータが停止することに備えて、屋上ヘリポートから地上までを繋ぐスロープ(緩い坂道)を設け、医療資材や患者さんの昇降に使えるように整備しました。

な お、本院は災害時に、電力会社が送電できなくなった場合を想定し、7日間は発電出来る自家発電設備を整備していますが、不測の事態の停電により手術が中断しないよう、第二病棟の屋上にも自家発電設備を設置しました。ほかにも、災害時に廊下、談話室でも医療活動が出来るように医療ガスや医療用コンセントを設けたり、水害を想定して止水板を各入口に設けたり、医療用酸素ボンベ庫を設けたりと様々なことについて整備し、高知県の地域災害拠点病院、急性期病院等としての機能を重視した病棟として完成しました。

引き続き第一病棟改修、中央診療棟改修、外来診療棟改修を予定しています。患者さん本位の病院を目指していますので、今後ともより一層のご支援をお願いいたします。

引



花粉症

について

耳鼻咽喉科 兵頭 政光



疫学

くしゃみ・鼻水・鼻づまり・眼のかゆみ、花粉症のある方にとっては憂鬱な季節が近づいてきました。全国的な調査では花粉症を有する患者さんは約30%にもものぼるとの報告があります。すなわち、全国では約3,500万人の患者さんがいると推計されます。なかでも高知県はスギの植林面積が広いこともあり、有病率は山梨県に次いで全国第2位と報告されています。また、最近では小学生などの小児の花粉症も増えてきていることが指摘されています。

原因

花粉症は、花粉に対して人間の体が過剰に反応する結果おこるアレルギー反応です。主に鼻や眼に症状がでますが、体が花粉を外にだそうとするために「くしゃみ」で吹き飛ばしたり、「鼻水」や「涙」で洗い流そうとしているのです。原因となる花粉は2～4月にかけて飛散するスギ(図1)が最も有名ですが、それ以外にも4～5月のヒノキ、6～8月のカモガヤなどのイネ科花粉、8～10月のヨモギなどの雑草花粉なども原因になります。

診断

花粉症の診断は、花粉飛散時の症状の有無と血液中にある花粉に対する抗体の検査により行います。耳鼻咽喉科では鼻の粘膜を直接観察して、アレルギーの反応を診断します。一方、スギ花粉症は季節的に風邪の流行する時期に発症しますので、鼻かぜや副鼻腔炎(いわゆる蓄膿症)などの鑑別も必要になります。

治療

治療には薬物治療、手術治療、減感作療法がありますが、自らが花粉の暴露を避けることがまず重要です。マスクを使用することで吸い込む花粉の量を3分の1から6分の1に減らし、鼻の症状を少なくさせる効果が期待できます。外出時のめがね着用や外出から帰った際のうがいや洗顔も有効です。花粉飛散の季節にはできるだけ洗濯物や布団を屋外に干さないことも重要です。



【図1】スギの雄花(左)およびスギ花粉の電子顕微鏡写真(右)。



【図2】鼻の中の粘膜(左図:*)をレーザーにより焼灼し、(右図)鼻の中を広くします。

薬物治療では体内でのアレルギー反応を抑えることで、症状を緩和する薬剤の内服が一般的です。眠気の副作用がでにくい薬や1日1回の内服ですむ薬、鼻づまりに有効な薬などの特徴を持った薬剤があります。鼻の中に噴霧する点鼻薬や眼にさす点眼薬もあり、患者さんの症状やライフスタイルに合わせて処方します。症状が高度の場合や薬物治療で十分な効果が得られない場合には、鼻の粘膜を一部切除したり、レーザーで焼灼したりする手術治療もあります(図2)。鼻水が多い場合には、鼻の粘膜に分布する副交感神経を切除する手術も有効です。減感作療法(正式には抗原特異的免疫

療法といいます)は、花粉などの抗原エキスを繰り返して投与することでアレルギー反応をでにくくして、花粉症の症状を根本から抑える治療法です。これまでは皮膚への注射が必要でしたが、昨年から舌下免疫療法といって、口の中で舌の下に抗原エキスを入れる治療法が保険適応になりました。自宅で簡単に行うことができ、注射と違って頻回に通院する必要がない特長もあります。

高知大学医学部附属病院ではこのような花粉症の診断や治療を専門的に行っていますので、花粉症でお悩みの方はお気軽にご相談ください。



お仕事紹介

「医療ソーシャルワーカー」について

医療ソーシャルワーカーは、MSW(Medical Social Worker)やケースワーカー、医療相談員など、病院によって色々な呼び方をされます。多くの医療ソーシャルワーカーは、国家資格である社会福祉士や精神保健福祉士を有しており、病院の中で働く社会福祉の専門職のことを指しています。

先駆的な病院では大正時代から医療ソーシャルワーカーが配置されており、職種としての歴史は古いのですが、実際に多くの病院に医療ソーシャルワーカーが置かれるようになったのはここ20年ほどのこととなります。実際に医療ソーシャルワーカーに相談されたり、話をしたことがない方はどんなことをする専門職なのかイメージがしづらいと思います。病気が怪我をすると、そのこと自体もその人にとってはとても辛いことですが、病気が怪我をすることを契機に色々な生活上の障害が起こることがあります。医療費や生活費のことで悩んだり、仕事の継続のこと、家に残してきた家族のこと、今後の介護のことなど、医師や看護師といった医療の専門職に相談しにくい困りごとが生じることもあると思います。そんなときに患者さ



医療ソーシャルワーカー(地域医療連携室 配属) / 写真左から:前田・小野・竹崎・大熊・高原・高橋

んやご家族からの相談に乗り、一緒に解決策を考えたり、必要な支援策を講じていくのが医療ソーシャルワーカーの役割になります。医療制度や介護保険などの制度利用に関することや、退院後の生活のこと、転院先や入所する施設を探すといったお手伝いもさせていただきます。

よくご相談頂く内容

- 医療費に関すること (高額療養費制度 限度額適用認定証の申請など)
- 介護保険制度の利用 (介護用ベッドや車いすのレンタル ヘルパーやデイサービスの利用など)
- 社会保障制度の利用 (自立支援医療 障害の手帳 指定難病制度 障害年金など)
- 転院や施設入所に関すること

病院によって、医療ソーシャルワーカーの所属先が「相談室」や「連携室」などと異なることがあり、どこで医療ソーシャルワーカーに会えるのか戸惑われることがあるかもしれません。病院にもよりますが、多少お待たせすることがあっても、特に予約等なくても医療ソーシャルワーカーと話をすることが可能なところが多いです。病院の受付等で尋ね頂くと良いと思います。

本院の医療ソーシャルワーカーは地域医療連携室に所属していて、診療科毎に担当がおります。何かご相談ごとがございましたら、主治医や看護師等にお尋ね頂くか、インフォメーションでお声かけ頂ければ幸いです。

医療ソーシャルワーカー単独では解決できないことも多いですが、その方の問題を解決する糸口を一緒に探したり、何が問題なのかを一緒に整理することは出来ると思います。病院の誰に相談して良いかわからないことがあれば、一度医療ソーシャルワーカーに相談してみられてはいかがでしょうか。



院内散歩

INNAI SANPO

フレンドリーコンサートを行いました

12月20日、附属病院外来玄関ホールにてフレンドリーコンサートを開催しました。

このコンサートは、入院中の患者さんに楽しんでいただくため、平成2年から毎年開催されています。今年も、学外から女声合唱団コール・グルッペ、学内から医学部管弦楽団、合唱団、軽音楽部、ダンス部の計5組が出演しました。

楠瀬伴子看護部長による開演の挨拶の後、クリスマスソングやドラマのオープニング曲、演歌などバラエティ豊かな曲が流れ、会場に集まった約140人の患者さんやそのご家族は、演奏に合わせて、ダンスの時には立ち上がって一緒に踊ったり、小声で歌を口ずさんだりしながらコンサートを楽しんでいました。約2時間続いたステージは、会場全体での合唱「見上げてごらん夜の星を」で締めくくられました。

終了後、患者さんからは「この年の瀬にすばらしい音楽のプレゼントをありがとうございました。とても良き思い出になりました」「心やすまるコンサートでした。ありがとうございました」等、多くの喜びの声をいただきました。



- ① 女声合唱団 コール・グルッペ
- ② 医学部 ダンス部
- ③ 医学部 合唱団
- ④ 医学部 軽音楽部
- ⑤ 医学部 管弦楽団

クリスマスツリーを飾りました

年末に病院外来玄関ホールにクリスマスツリーを飾りました。組み立てられた約2メートルのツリーはたくさんの可愛い飾りやライトで彩られ、ホールはクリスマスモードに包まれていました。



ご意見・ご感想は
こちらまで
どしどし
お寄せください。



〔郵送先〕

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部・病院事務部
総務企画課調査・広報係
TEL.088-880-2723 (直通)

■ ホームページ

<http://www.kochi-ms.ac.jp>

■ メールアドレス

kms-info@kochi-u.ac.jp

高知大学医学部附属病院
KOCHI MEDICAL SCHOOL HOSPITAL
〒783-8505
高知県南国市岡豊町小蓮185-1
TEL.088-866-5811 (代表)
TEL.088-866-5815 (時間外)